2020年11月27日

教育アセスメント×言語処理シンポジウム
パネル討論：教育アセスメント×言語処理の可能性

代ゼミ自動採点における今後の取り組み

代々木ゼミナール 教育事業推進本部
本部長 佐藤 雄太郎

Copyright © 2020 YOZEMI Research and Development All Rights Reserved.

自動採点における研究・調査への参加

2015年 9月　大学入試センターへの記述式採点技術に関する調査・研究への助言

2016年10月　大学入試センターへの記述式答案の提供および採点技術に関する助言

＊過去に実施した模試等の記述式答案の提供

＊採点技術における効率化等の調査・研究への助言

2017年 4月　大学入試センターへの記述式答案の提供

＊2016年度の継続業務（～2018年3月末まで）

2018年 1月　記述式答案におけるアノテーションに関する研究発表（理研による発表）

2018年 6月　「個別教科指導支援のための習熟度診断技術の実用化に関する研究」開始

＊理化学研究所 革新知能統合研究センター（AIP）・大学入試センターとの共同研究

＊代ゼミは、答案提供および採点技術に関する助言

Copyright © 2020 YOZEMI Research and Development All Rights Reserved.

大学入学共通テストにおける「記述式」の導入

2016年3月 文部科学省「（高大接続システム改革）最終報告」

特に今後重要となる複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる**思考・判断の能力**や、その過程を**表現する能力**をよりよく評価するために、**記述式問題を導入することが有効**である。

高等学校教育においても、習得・活用・探究の学習過程における言語活動等の充実が促され、**生徒の能動的な学習をより重視した授業への改善**が進むことが期待できる。なお、諸外国の大学入学資格試験においても記述式の採用例は多い。

Copyright © 2020 YOZEMI Research and Development All Rights Reserved.

共通テストの記述式は中止となったが・・・

●大学入学共通テストにおける「記述式」導入の中止・・・

- 中止に伴い、「記述式」に関する提供コンテンツの見直し
- ただし、大学入試の記述式は国公立大２次試験および私立大において出題される
- 採点基準など記述式における技術の向上が求められる

  ＊大学入学共通テストにおける課題（一意性ある採点基準、多くの受検生を評価）

●記述式における自動採点の研究・調査を通じて「書くこと」への再評価

- 記述式答案の分析
- 記述式答案の採点に関する見直し
- 「書くこと」の能力を向上させるには、「正しく読めているか」の研究も必要

  ＊問題文や出題意図を正確に理解すること：リーディング・スキル・テストへの参画

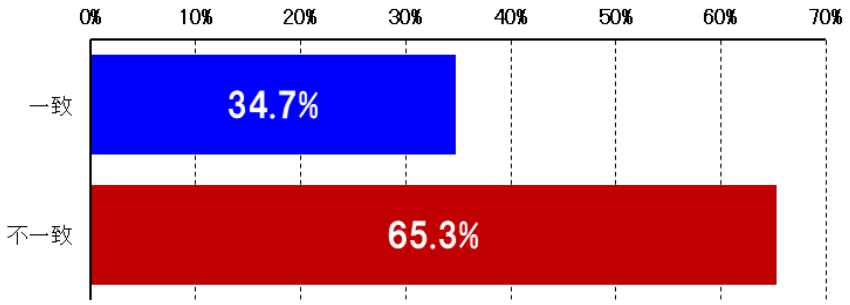
  ＊大学入学共通テストにおける記述式を研究する中でわかってきたこと

Copyright © 2020 YOZEMI Research and Development All Rights Reserved.

（参考）代ゼミ模試における記述式の結果から見えてきたこと

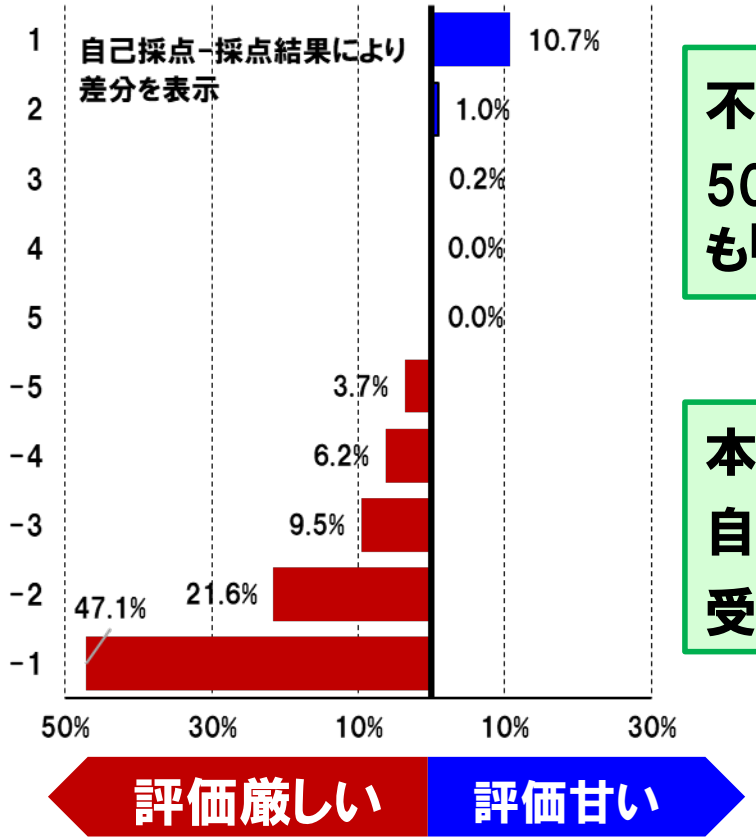
国語・総合評価の自己採点について

【1】総合評価における自己採点と結果の一致率



総合成績では、
半数以上が不一致

【2】自己採点と結果の差分（自分の評価とのズレ）



不一致だった受験生のうち、
50％近くが、「採点結果」よりも「自己採点」を厳しく評価

本番でも、
自己評価を「厳しく」評価する受験生が多い？

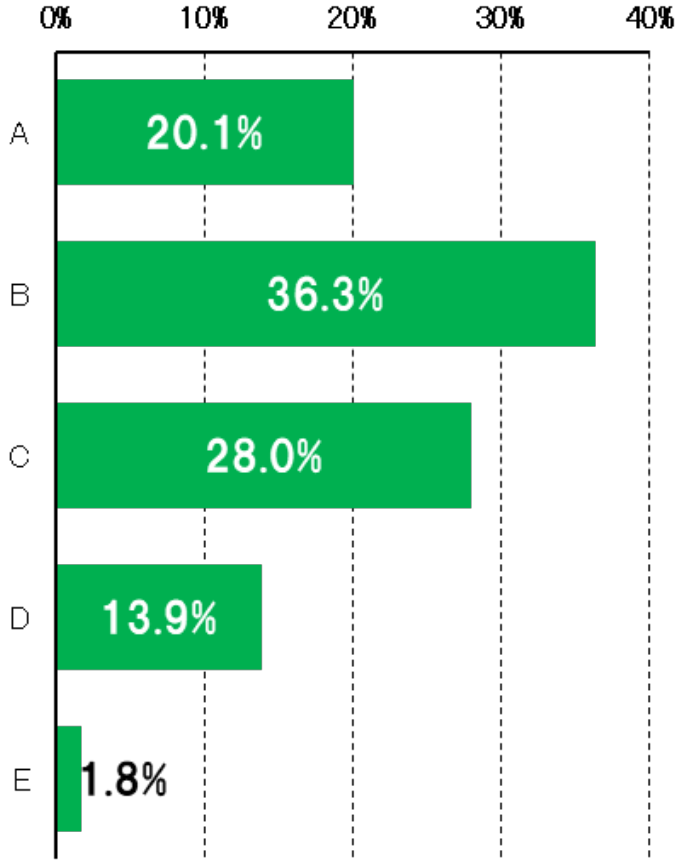
2018年3月実施
「第3回高1スタンダードレベル模試」結果より

Copyright © 2020 YOZEMI Research and Development All Rights Reserved.

（参考）代ゼミ模試における記述式の結果から見えてきたこと

国語・総合評価の自己採点について

【３】総合評価における自己採点と結果の一致率



・自己評価と採点結果が一致していない受験生の傾向
　▶A～Cと自己評価した受験生に不一致が多い
　▶志望校決定の際に、自己採点を正確に行うことは極めて難しい？
　　⬇
「特に国語において、自分の解答が許容範囲なのかどうかの判断に迷ったのではないか」（2018試行調査結果より）

2018年3月実施
「第3回高1スタンダードレベル模試」結果より

Copyright © 2020 YOZEMI Research and Development All Rights Reserved.

（参考）リーディング・スキル・テスト（RST）への参画

- ●2016年より、国立情報学研究所・新井紀子教授による「教育のための科学研究所」で開発した「リーディング・スキル・テスト（RST）プロジェクトへの参加
- ●2019年よりRST（Pコース）の提供
- ●2020年よりRSTの代ゼミ生提供、RSTのフォローアップ講座となる「読解力の処方箋」リリース
- ●「書くこと」の能力を向上するには、「正しく読めているか」も求められる。
  - ＊自己採点や採点基準の理解に求められる文章を一意で読み解く力の必要性

Copyright © 2020 YOZEMI Research and Development All Rights Reserved.

今後の取り組みとして

●授業スタイルの変化に伴い、記述式の指導方法も変化が必要

- 現状では対面指導がベストだが、映像授業だけで完結させる指導方法も求められる
- 記述式の指導も、ある程度までは自動化が必要（採点の自動化）
- 2021年度からトライアルのサービス検討

Copyright © 2020 YOZEMI Research and Development All Rights Reserved.